

第2学年 道徳科学習指導案

主題名「私たちが作る校風」【C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実】

資料名「ハイタッチがくれたもの」(日本文教出版 中学道徳 明日を生きる)

主題設定の理由

学校は生徒にとって社会生活の中心であり、生徒一人一人が役割と責任を果たす場でもある。また、学校には独自の校風がある。それは先輩たちの長年の努力によって培われた物を後輩たちが継承し、更に協力し合い、よりよい校風へと発展させていくものである。若者の人間関係の希薄化が叫ばれる今、中学校時代に人間関係を深め協力し合い、尊敬や感謝の気持ちを抱くことへの自覚が大切である。

そこで、本資料を活用して、よりよい校風をつくるには、集団を構成する一人一人が自分から集団に関わり他者に共感しながら集団をつくりあげていこうとすることが大切であると理解し、学級や学校での各自の役割と責任を果たそうとする態度を育てることをねらいとして本主題を設定した。そして、生徒たちから見たクラスの現状や学級目標の達成度と繋げ、自分たちがどのようにしてよりよい集団づくりをしていくか考えさせる時間を作り進めていきたい。

本資料「ハイタッチがくれたもの」は、主人公がいじめゼロサミットで提案されたハイタッチの日の取組を基に、いじめゼロに向けて校内で提案するものの賛成してもらえなかった。その後の部活動のチームメイトとの関りを通して狭い仲間意識を克服し、互いの信頼関係を確認しサポートする気持ちに気づき、もう一度提案しようとする様子が書かれている。ハイタッチをすることで皆大切な仲間だと実感し、もう一度皆に提案しようとする様子から、自分たちもよりよい集団づくりに向けて何かできることはないか考え、集団で協力し合う大切さに気づき、狭い仲間意識を超え、よりよい校風をつくらうとする道徳的実践意欲と態度を育むことができると考える。

子どもの実態

本学級は、学級目標「Light～一人一人の個性を輝かせ色々なことに挑戦できるクラス～」を掲げている。本学級の生徒たち(36名)の一学期末の振り返りでは、学級目標に対する達成度は約53%であった。記述には以下のようなものがあり、互いの声掛けで支え合い協力できるような関係性はつくれてきているが、学級の一体感はまだこれからといった印象を抱いていることが分かる。

- | | |
|------------------------------------|--------------------------|
| ・皆仲良く笑顔で過ごせた。 | ・友達とのトラブルなく一学期を過ごせた。 |
| ・体育祭で盛り上がるのができた。 | ・休んだ時などに友達が心配して声をかけてくれた。 |
| ・全体的にまだまだ仲良くなれると思う。 | |
| ・新しいクラスになって初めての学期で、緊張して積極的に動けなかった。 | |

本時の指導観

そこで本時は、いじめゼロに向けてハイタッチの日を提案するものの賛成してもらえず、その後の部活動のチームメイトとの関りを通してもう一度提案しようとする「ハイタッチがくれたもの」を活用し、よりよい校風をつくるには、集団を構成する一人一人が自分から集団に関わり他者に共感しながら集団をつくりあげていこうとすることが大切であると理解し、学級や学校での各自の役割と責任を果たそうとする態度を育てるために、次のような発問を行う。

- ・賛成が得られず裕司がモヤモヤしていることや、個人で校風をつくることの難しさに気付くことができるように、発問1を行う。
- ・裕司が実際にハイタッチを通して魅力を実感し、取組にすればその魅力に共感してくれるのではないかと心情の変化があったことに気付くことができるように、発問2を行う。
- ・よりよい校風づくりのためには形だけの取組ではなく、その取組に込められた思いや考えに共感することが大切だと理解することができるように、発問3を行う。
- ・自分のこれからの行動を考え、自分事として考えることができるように、発問4を行う。

本時 令和5年10月31日(火) 第5校時 第2学年1組教室

ねらい よりよい校風をつくるには、集団を構成する一人一人が自分から集団に関わり、他者に共感しながら集団をつくりあげていこうとすることが大切であると理解し、学級や学校での各自の役割と責任を果たそうとする態度を育てる。

本時の過程

学習活動・内容	発問	指導のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 本時の学習の方向性とめあてを確認する。</p> <p>(1) 大刀洗中学校の校風についての事前アンケート結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい ・楽しい ・仲がよい <p>(2) 今の自分の、大刀洗中学校の取組への関心度を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり自分から関わっていない <p>(3) 本時のめあてを確認する。</p> <p>よりよい校風をつくるために、大切な心を考えよう。</p>	<p>【補助発問】</p> <p>大刀洗中学校の校風と自分の関わりについてどのように思いますか。</p>	<p>よりよい校風をつくるための自分の関わりについて、問題意識を持てるようにする。</p> <p>・よりよい集団づくりに対し、自分との関わりで考えようとする事ができるように、学校の校風や取組と、今の自分の関心度を比較する活動を設定する。</p>	一斉	10
<p>2 資料を読み、ハイタッチを通して裕司が感じたことを考える。</p> <p>(1) 「ハイタッチの日」を提案した時と、賛成してもらえなかった時の裕司の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい学校にしたい。 ・皆も賛成してくれるはず。 ・生徒会長として頑張りたい。 ・なんで賛成してくれないのだろう。 ・本当に学校のこと考えているのか。 <p>(2) もう一度提案をしようと決心した裕司の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じたことを学校全体に広げて、明るく、もっとよくしたい。 ・一体感が得られてよいはず。 ・学校のよさをもっと広げたい。 ・自分が感じたことを皆にも感じてもらう学校をよりよくしたい。 <p>(3) よりよい校風をつくるには、どのようなことが大切か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組に対して込められた思いをみんなが共感して行わないといけない。 ・まずは取組を試してみることも大事 	<p>【発問1】</p> <p>「ハイタッチの日」を提案し、賛成してもらえなかった時の裕司はどのような気持ちだろう。</p> <p>〈共感〉</p> <p>【発問2】</p> <p>なぜ裕司はもう一度ハイタッチを提案しようとしたのだろう。</p> <p>〈分析〉</p> <p>【補助発問】</p> <p>「ハイタッチはきっと何かをくれる」の何かとは何だろう。</p> <p>【発問3】</p> <p>よりよい校風づくりには取組と共感のどちらが大切だろう。</p> <p>〈問い返し〉</p>	<p>集団を構成する一人一人が自分から集団に関わり他者に共感しながら集団をつくりあげていこうとすることが大切であると理解することができるようにする。</p> <p>・ハート図を使用し、裕司と周りでの思いの差ができていことに気付くことができるようにする。</p> <p>〈視覚的表現活動〉</p> <p>・裕司が実際にハイタッチを通して魅力を実感し、心情に変化があったことに気付くことができるように発問2を行う。その際、裕司が感じた魅力はどのようなものかを考えるために補助発問を行う。</p> <p>・よりよい校風づくりのためには形だけの取組ではなく、その取組に込められた思いや考えに共感することが大切だと理解することができるように発問3を行う。その際ハート図を利用し、最初と比べて思いが広がっていることに気付くことができるようにする。</p>	個／小集団／学級集団	30
<p>3 学習のまとめとして、自分自身が大刀洗中学校をつくるために、今後誰とどのような関わり合いをしていきたいか考え振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分はこれから、学校の取組にどのような思いが込められているのかを考えて皆と協力して取り組んでいきたい。 	<p>【発問4】</p> <p>よりよい大刀洗中学校をつくるために、あなたは今後誰とどのような関わりをしていきたいですか。</p>	<p>よりよい校風づくりに向けて自分自身がどのようなことを意識していくか考えることができるようにする。</p> <p>・自分のこれからの行動を考え、自分事として考えることができるように、発問4を行う。</p>	個一学級集団	10